

まちネット岸和田講演録

日 時：平成 17 年 4 月 19 日（火） 18：30～20：45

場 所：岸和田市立公民館 3 階和室

ゲストスピーカー：久 隆浩さん（近畿大学工学部教授）

八尾市、豊中市などで住民主導型のまちづくりに積極的な支援するコーディネータとして、さまざまな NPO 団体とも関わり、活動を展開している。

難しい理屈を並べるのではなく、わかりやすく実感できるまちづくりを目指している。

岸和田市では、環境デザイン委員会委員、きしわだ都市政策研究所総括研究員として関わられている。

テーマ：交流の場とまちづくり活動

講演内容（要点筆記）

皆さんこんばんは。まちネットの発足にあたり、「交流の場」とはどういったものかについてお話しします。

私は二十年来まちづくり活動をお手伝いしてきました。上手くいく場合もあるし、いかない場合もあります。

これからのまちづくりについて「何が必要かなあ」と自分なりに経験の中から考えました。そんな中から、数年前に「交流の場」の必要性を感じました。幾つかの地域で既に始めています。

半信半疑で始めましたが、今から考えると、この「交流の場」が、当初考えていた以上に機能しています。

そういったお話をさせていただき、これからのまちネットについてみんなで考えましょう。

1、市民活動の現状と課題

市民活動の現状と課題について、二つの話をします。

< 想いを語ること / 想いを聞く事 >

想いを語る人は多いが、想いを聞く人は少ないです。また参加している人も少ないのが現状です。

岸和田市には 20 万人も居るのに、今日集まっているのは 40 人程度ですよね。今後、どうやって増やしていくかがポイントです。そのきっかけとなるのが「交流の場」だと思います。

最近、行政の取組みで市の方から、市民活動へ助成金を出す制度があります。「どういったグループに」、「どういった人に」など、公開審査会を開催して決定します。

会場の様子は、フロアの方の多くは次の発表者です。その多くは自分達のことを伝えたら「もういい」という感じで、他のグループの発表には関心がない状況です。

「これは困ったなあ...」ということで、八尾市では面白い仕組みを取り入れました。

八尾市の環境活動の助成金の時に、ある工夫をしました。それは必ず最後まで居てもらおう工夫です。最後に自分達でも票を入れることが出来るようにしました。テレビの「プレゼントは番組の最後に！」と同じ仕組みです。

各自3票持っています。そのうち1票は自分たちのグループに入れますよね。残り2票について、自分達の市民活動の仲間から2票どれだけでもらうかがポイントです。

そうしたところ、1年目は慣れていませんでしたが、2年目には発表の質が上がりました。

「人にどうすれば伝えられるか」と言う点で、言い方・伝え方がアップしました。

経験に基づき、みんなが学習し合います。2年目、3年目になるとレベルアップします。皆さんも見目を持っています。独りよがりの団体には票が入りません。そういうことで言うと、これは典型例です。

「想いを語ること、想いを聞く事。語る人は多いが、聞く人は少ない」。

人の話を聞く人は、まだまだ少ないです。これを逆転することが大事です。

<他人が語ることは自分には関心のないこと>

あなたにとって、しょうもない話かもしれないが、言っている方にはすごく大事な話という場合があります。

みんなそれなりの想いを持って話しています。訴えたいことを話しています。捉える側にとってしょうもないか、面白いのかはまちまちです。

そういうことを挙げていくと、今までとは違う集まりになります。

反面教師のところがあって、自分が話す時は楽しく話すようになります。すると場がどんどんレベルアップしていきます。

大切なことは**「思いの違いを乗り越えて集まること」**です。

これまでは思いの同じ人が集まる機会は多かった。「これ（思いの違いを乗り越えて集まること）をどうやって創っていくか」がポイントです。

これからの世の中コミュニケーションが大切だと言われています。ではコミュニケーションって何でしょうか。

多くの学者が言っているのは、自分の想いを伝えるのではなく、**他者の発見をすること**と言っています。

「話をすれば自分と考え方の違う人がある」というのが、わかることが大事です。

自分と同じではなく、自分と違うことを認識する。

“違う人に自分の想いをどう伝えるかを思い悩み、上手く気持ちを通わせる努力すること”。それが“コミュニケーション”です。

自分の想いを押し付けたりするのはコミュニケーションではありません。他人の想いの上に、自分の想いをかぶせることが大事です。

まず違いを発見する場所を作ること…。これが必要になります。

最初から主義主張があった場合は「こういうために集まりましょう」となります。**主義主張があれば、目的は明確になるが、なればなるほど関係ない人、違う考えの人、関心のない人は集まりません。**

会に目的を作らない方がいろんな人が集まります。これが「交流の場」のヒントです。

でも「とりあえず集まろう」には、私たちは慣れていません。

私達は目的のある会合に慣れていません。何にもなく集まるのは苦手です。「何があるの?」「集まったらええ事あんの?」と聞きます。「とにかく行ってみよう」とは、なかなか言えません。目的指

向型の人生・社会に慣れているんですね。割りきりが出来ないのです。

でもちょっと考えてみると、既にやっているんですね。例えば花見です。酒を呑むのに理屈なんか要らないですよ。

「人の話を聞きたいから集まろう」という会もあってええんちゃうかと思います。それがとても大切です。いろんな人が集まれる場・熱く語れる場が大切です

でも語り合いには、最初から「アンタ間違ってるで」など言わないことが大事です。

私が皆さんに言っているのは、最初から「おかしい」、「間違ってる」など言わないようお願いしています。

どんな意見もそれなりに正しいのです。もしかしたら間違った意見などないかもしれません。

ある立場から見れば正しく、正しくないがあります。自分の物差しにあわないと「おかしい」、「違う」となります。

そこはグッと我慢してストレートに想いを聞く。そうすると想いを理解しあうステップになります。

違いを調整し、乗り越え、想いを共有すれば次のステップ、次の方向性につながります。これには時間がかかります。経験上少なくとも2、3年は必要ですし、かかってしまいます。

最後は頑張って共有できればと思うし、もし出来ない場合でも、意見の違いをそのままにしながら共に暮らすことも出来るはずですよ。

それが出来るなら**わざわざ意見を一緒にしなくても良いのではないかと思います**。無理矢理一緒にしなくても、共に暮らす知恵を働かせるやり方もあります。

「まだまだ集まって何とかしよう」という人は少ないです。これも無理強いせずに、自発的に参加する方をどうして増やすかがポイントです。その手がかりが「交流の場」と思っています。

個人情報保護法が制定されましたが、ギクシャクした社会になったのかなあと感じます。

大学も厳しくなります。具体的に言うと掲示板で学生呼び出しが出来なくなります。そういうことまで気を使う世の中になったのかなあと感じます。

最近「お互い様」という気持ちがなくなりつつあるのが心配です。お互いの想いを語り合うことが苦手から来ているのかなあ...、と思います。

2、交流の場づくり

「交流の場づくり」とは、一体何なのか。**それは元気な人が集まって、さらに元気を重ねる仕掛け**だと感じています。

八尾市、交野市、川西市、箕面市では「まちづくりラウンドテーブル」という言い方をしています。

八尾市では2箇所の小学校区、交野市は市全体で月1回、川西市では2箇所、箕面市では3箇所、共に小学校区で行われています。枚方市では「まちづくり井戸端会議」という呼び名です。

八尾市で最初に立ち上げようとした4年前は井戸端会議という言葉まで踏み込めませんでした。ある人が「井戸端会議やったら行かへんで！」と言われたので...。井戸端会議だと逆に来ない人がいるとなりました。

円卓会議という案もあったが、「会議ではないやろう。もっと気楽なモンやろう...」となり、それでラウンドテーブルになりました。

箕面市は全て違う名称です、井戸端会など...。名前はどうでもええかなあと感じます。岸和田は、まちネットで進められるんですよ。

吹田市の北千里地域交流会は、面白い成り立ちです。呼び掛け人は商店会の方です。ユニークなのは吹田市には万博球技場がありますよね。その関係でガンバ大阪事務局の人も入っており、いろいろな催しを共催で行ったりしています。

地域の防犯教室を行うといった話が出た時、ガンバの人が「その日うちの試合やから、防犯教室参加者に地域で何かあげますよね、例えばティッシュとか。それを持って試合を見に来てくれたら、ガンバ大阪もお土産グッズをあげましょう」といった話もありました。

「交流の場」の元気が、元気じゃないかのバロメータは、**どれだけ違った立場の人が集まっているかどうか**です。

小学校・中学校・高校の先生、PTAの方、環境会議のメンバーなど様々な方が来ているところもあります。だからそれだけ元気なんです。

同じような方が集まれば、どうしても同じような話になります。同じようなことで困っています。だから助け合いにならないんですね。

金がない人がくれば「金がない。どうしよう」という話になる。そして最後には「役所に言いに行こう」という話になります。でも北千里では商店街やガンバの人が入っているの、違う話になります。

北千里では商業者が入っているのは先程話しましたよね。そこでは買い物シールを上手く使っています。買い物をしてくれたら、その2割を市民団体に還元する仕掛けを行っています。商店街も儲かるし、市民団体も助かります。地域版のベルマーク運動の様な感じです。

北千里では初の取組みをしています。それは地域通貨の経済特区です。

吹田市側のメンバーが集まりに参加しています。枠組みを広めようとしています。また北千里の教師も参加していますが、その話を聞いて、生徒の社会の学習に使えるのではという思いを持っており、高校と地域の交流・組み合わせが出来る動きがあります。

こういうことをあちこちでしていると、私自身の時間がなくなります。でも最初に立ち上げた所は、私が居なくても活動しています。そこで私は別の所の立ち上げにお手伝いするという形を取っています。最初の5、6回はアドバイスをしながらやっています。

箕面市は昨年の秋から実施しています。これからどうするという会議を世話人が集まって行いました。

最初は3地域とも、世話人自身が「これでいいのか」という思いがあったみたいです。でも話すうちに、「とりあえずこれでいこう」「やっていこう」ということになりました。

わかっておいて欲しいのは、こういった集まりは大きなことにはつながりません。**小さなことから始まってきます。**

みんなで今後の取組みを話しているうちに、「そういえばこんなこともあったなあ」、「案外色んなことが生まれてるんや」という気付きになり、結局継続することになりました。

箕面市では新しい掲示板の場所をある人のつぶやきから実現したり、学校でのプリント配布を工夫したりなど……。みんながわいわいがやがやの中で言い合える、その中で当事者がすぐに動く感じでした。

世話人の方が言うのは、**「一番の成果は『言うてもしゃあない、やってもしゃあない』という人が地域でいなくなった」**ことです。誰かが何か言えば、誰かが拾ってくれます。

これで大きくまちが変わったり、何かかが変わったりする、動いたりすることはありません。特に

最初はそんなもんです。

だんだん雰囲気はわかってくれたと思いますが、まちネットは「情報交換の場」です。だから結論を出さない、決め事をしないのです。

これを聞くと「何やそれは！？」、「何を話してるねん！」となります。

でも最近では「無理に結論を出さなくても良いのではないか」と堂々と言えるようになりました。厳格に決め事をしたい場合は、しっかりと議論できる場所を持てば良いのです。

3、交流の場の役割と効果

ここでは新しいつながり、ネットワークが生まれます。つながり作りの場所と思って下さい。

この場はあくまでも「交流の場」です。これを理解することが大事です。

ですから「さようなら」と言えば、二度と会わない人もいるかもしれません。たまたまここで出会ったメンバーが、2時間だけ空間・時間を共有しているのです。別れてしまえば、もうバラバラ…。これが「場」です。

組織はそういうわけにはいきません。組織は自分が退かない限りは抜け出すことは出来ません。これが「場」と「組織」の違いです。

だからこそ組織は活動が担えるんです。意思決定が必要なんです。

場はたった2時間だけのつながりです。その場限りでいい。それなら意思決定は要らない。ということ。

もし新しい出来事を動かすために組織が要るには、この場で呼び掛け、新しいメンバーを募って組織を作れば良いのです。この場が主体にならなくても良いのです。

支え隊とまちネットの関係ですが、支え隊は「組織」、まちネットは「場」。この違いを確認・共有しておく必要があります。

支え隊はまちネットを開くお世話役です。役割は単なる場所取りだけです。話題もみんなが持ち寄り、その場で話が盛り上がるんです。今までの会議は、誰かが次第を作って、話題・ネタを仕込むなど責任を自分がかぶってしまうんですね。

会費については、交野市ではカンパで会場費を賄っています。集まりでは、毎回会計報告を行っています。残金が低くなったら、その都度みんながカンパする。そんな仕組みで運営しています。

伊丹市では、シンポジウム会場の後ろにカンパ箱を設置している。みんなに賛同を得たら、お金を入れてくれる仕組みです。そんなノリですれば良いんじゃないでしょうか。

「話題がなかったらどうするの？」と心配する方が居ます。でも逆に喜ばないといけません。

話題がなければその地域で、何も問題がなかったということです。平和であるということです。

無理に話題を作らなくても良いんです。「平穏無事に暮らせたなあ」ということを話に来るだけで良いんです。話題がなくても、来月の予定（グループの予定など）を言いあったりで良いんです。

2時間の会議でも、無理に2時間を使わなくても良いんです。1時間早く終われば、1時間自分のために使える時間が増えるからラッキーですね。無理に時間を使わなくても良いんです。

またこれまでの会議は、人数にこだわっていました。「交流の場」だから、2人居れば交流になります。そんな気楽なノリで始めれば良いですね。

北千里では人数が増えていきます。中には神戸から来ている人もいます。その人は阿波踊りの指導者で、北千里で子どもたちを指導している方です。人の話を聞きにくる喜びがあれば、良い

んです。

< 交流の場のポイント >

それと肩書きを外して参加することが大切です。地域の会合でもあったが、殆んど役員の方で役員会のような感じです。でもそんな肩書きのない人達が集まる機会がないんですね。場には肩書きを外して参加することが大事です。

強制しないことが大事です。「ここに来たから役員をやらされた」などです。

人からやらされないことが大切です。でも気をつけないと、心の中で勝手にやらしている場合があるので注意してくださいね。

こんな会でも元気なのは、参加者の積極性です。

文句言いが集まったら雰囲気が悪いんです。「こんな問題どうするねん！（俺は関係ないから、町会がすればええ。学校がすればええ。）」など・・・。

みんなが少しずつ何が出来るかを考えながら進めることが大事です。

それと、話は面と向かってしないことです。話を集まりの輪の中に投げる感覚です。

誰かが拾ってくれる。拾ってくれなくても今と同じまま。プラスマイナスゼロのまま。拾ってくれたら儲けモンと思う位の気持ちが必要です。

「また新しい組織作るんか」と言われることが多いですが、「『組織』ではなく『場』なんです」と言えば、納得度が上がります。

「何やねん、それは！」と言われる場合は、「騙されたと思ってやりましょう」と言っています。

最初は5・6回試しにしてもらいます。やめたとしても、プラスマイナスゼロのままです。

お土産は自分で作り出す。お土産は人によっても違うので良いんです。喜びは一人ひとりが感じるのです。

お客様を作らないことが必要です。文句を言うのは自分がお客さんと思っているからです。“お客さんは作らない雰囲気”を作り出すことが大事ですね。

面白くなければ、自分が面白くすれば良いんです。みんなで作り出せば良いんです。一人ひとりが盛り上げたら良いんです。

今までの活動だけを行うのであれば、交流の場を持つ必要はありません。

元気な地域こそ、場は必要ありません。でも新しいことを始める・創り出すには、「交流の場」は、非常に意味があります。有意義です。（例、とんど祭り、野外の集い等）

< 交流の場の効果 >

地域の人とのつながり・新しい人とのつながりが出来ます。

北千里では終わってから20分くらい立ち話をしています。「もうチョット話聞かせてよ」という感じで...。出会いのきっかけになっています。

活動したいが見つからない人が増えています。特に高齢男性（団塊の世代）です。すぐに踏み込めない人がたくさん居ます。どこに行けばよいかわからない人が、ここでいろいろ知ってもらえる場になっています。

多様な意見が理解出来ます。決め事をしないから、本音が出ることがあります。住之江区ではペット問題について話し合う場があります。自由な場所だから色々な意見が出ています。

<まちネットをするにあたって>

まちネットをするにあたって、色に染まらないことが大事です。**誰が来ても良いという空気が大事**なんですね。

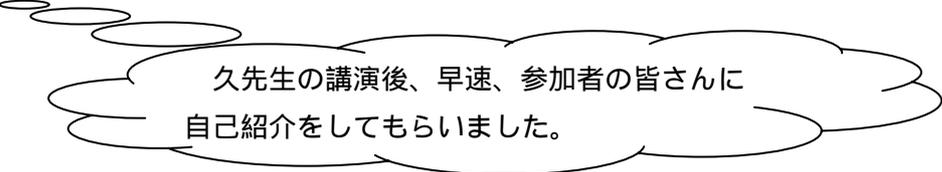
どうして「あの人とあの人が居るの？」という呉越同舟が大事です。その方がニュートラルな場になります。誰が来てもウエルカムという空気を作って下さい。

北千里では**必ずみんなに自己紹介してもらっています**。時間がかかってしまいますが、必ずしてもらいます。

なぜかと言えば、新しく入った方に自己紹介してもらおうが、他の人は自己紹介しない。そこで新しく来た方は疎外感を感じるんです。どんなに時間がかかっても**話を回すのが大事**です。

自己紹介を毎回すれば、だんだんと自己紹介の時間が短くなります。最初の頃は話は長くなるが、それを乗り越えれば上手く行きます。**新しい方をウエルカムにするには、必ず自己紹介をすることが大事**です。

極論すれば自己紹介で終わるだけの会があっても良いんです。よく聞くと**その中にはいろんな情報が入っています**。



久先生の講演後、早速、参加者の皆さんに自己紹介をしてもらいました。

<皆さんに一言>

交流の場を人に説得するのは難しいです。やっている本人が「これでええんかなあ…」という感じですので。でも「これでええんや」と自信を持ってもらえたと思います。理屈で反撃されると負けてしまいます。

自分が腑に落ちないと他人には勧められませんよね。今日の話で腑に落ちてもらったと思うので、多くの方を誘ってくださいね。

説明をすると、どうしても理屈が勝ってしまいます。感性で行うことが、すごく大事だと感じています。無理のないまちネットにして欲しいですね。

当日の久隆浩先生の講演を聞くことができます。

<http://machi-net.rankanbashi.net/>の「まちネットとは何か」をクリックしてお聞き下さい。

交流の場とまちづくり活動

近畿大学理工学部社会環境工学科教授 久 隆浩

1. 市民活動の現状と課題

想いを語ること / 想いを聞くこと

想いの違いを乗り越えて集まるためには

まずは集まる 語り合う 想いを理解しあう 違いを越えて共有する

他人が語る事を私にとって関心のない事と言うが...

活動を担う人はまだまだ少数

2. 交流の場づくり

地域でいろいろな人が定例的に集まり語り合う場をつくる

元気な人が集い、元気を重ねていくしかけ

まちづくりラウンドテーブル（八尾市、交野市、川西市、箕面市）

まちづくり井戸端会議（枚方市）

北千里地域交流会（吹田市）

まちづくりフォーラム（大阪市住之江区）

結論を出さない、意思決定しない

協働活動やネットワークが生まれるきっかけづくり

情報交換や意見交換の「場」 活動の「組織」

肩書きをはずして参加する

何ごととも強制しない

参加者の積極性が鍵： 人のせいにしない、人まかせにしない

おみやげは自分で作りだす、魅力は自分で感じる

お客様をつくらない

3. 交流の場の役割と効果

今までの顔ぶれで従来の活動を行うだけであれば新たな「交流の場」は必要ない
仲間を増やす、新しいことをはじめるときに有効

(1) 交流の場が催しを生み出す

八尾市東山本小学校区 とんど、野外の集い
ラウンドテーブル有志の主催 / タスクフォース

この指とまれ
ひょうたんから駒

組織人 仕事人
 組織に所属して仕事をする 仲間をつくって仕事をする

(2) 地域の人々がつながっていく

個々の頑張りがつながればさらに力を増していく

お互いが助け合い補い合ってさまざまなものが実現していく
多様な人が参画する

活動をしたいと思っているが何をしたらいいか見つからない人でも気軽に参加できる

(3) 多様な意見が理解できる

交野市まちづくりラウンドテーブルの公共施設の開館時間についての議論
大阪市南港ポートタウンのペット問題

対話の結果（合意形成）よりも過程が大切